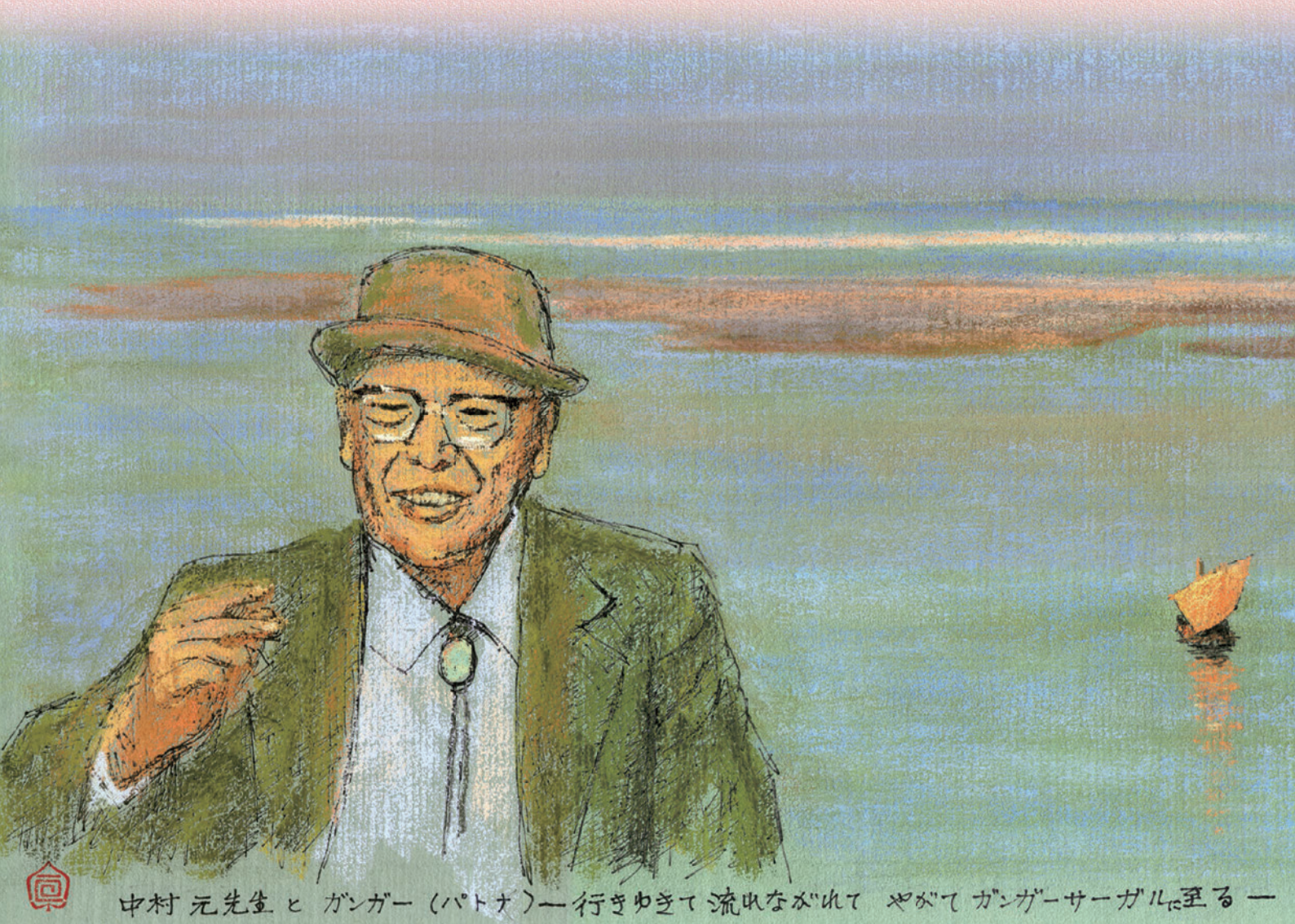
中村元記念館
Nakamura Hajime Memorial Hall
नाकामुरा हाजीमे स्मारक सभागृह

東方学院松江校
The Eastern Academy at Matsue

受講の手引き

2018年度



東方学院

理念

〈人間〉の回復をめざし
財団法人東方研究会を母胎として
ここに『東方学院』を開設しました。
『東方学院』は本学院の理想に賛同する学者個人と
そのもとで学ぼうとする学徒とによって構成される
共同体としてのグループの連合です。
〈個人指導の場の共同体〉とでもいうべきものをめざしています。

The Toho Gakuin (The Eastern Academy) was established
with the hope of contributing to the restoration of human integrity.
This Academy is a cooperative body of various academic communities
of scholars and students wishing to learn,
in which scholars provide personal guidance to the students.
Above all, our aim is to have this Academy be the rallying point
for students and scholars.

東方学院松江校の運営は特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所が行います。

目　次

「慈しみ」 ―― 3
ごあいさつ ―― 4
東方学院とは ―― 4
東方学院松江校　2018年度　講義一覧 ―― 6
2018年度　定期講義　講義内容 ―― 8
2018年度　集中講義　講義内容 ―― 18
2018年度　年間スケジュール ―― 30
東方学院松江校　2018年度お申し込みと
　受講料のご案内 ―― 32
受講申込書 ―― 33
中村元記念館ボランティアサポーター募集 ―― 35
中村元記念館東洋思想文化研究所研究員募集 ―― 35
中村元記念館友の会入会のご案内 ―― 36
アクセス ―― 37

表紙絵：
中村元先生とガンガー（パトナ）
―行きゆきて　流れながれて
やがてガンガーサーガルに至る―
画：石川 響

慈しみ

一切の生きとし生けるものは
幸福であれ　安穏であれ　安楽であれ
一切の生きとし生けるものは　幸であれ
何びとも他人を欺いてはならない
たといどこにあっても
他人を軽んじてはならない
互いに他人に苦痛を与える
ことを望んではならない
この慈しみの心づかいを
しっかりと　たもて

中村元訳　ブッダのことば

中村　元
(1912～1999)

インド哲学・仏教学の世界的権威であり、比較思想学の開拓者。1500点を超える膨大な著作・論文を発表し、我が国における思想研究の分野を大きく発展させた。従来のセクショナリズムにとらわれない壮大な世界思想史を構築し、その業績は海外でも高く評価されている。

大正元年島根県松江市に生まれ、東京帝国大学でインド哲学を学ぶ。同大学名誉教授。昭和45年財団法人東方研究会（現公益財団法人中村元東方研究所）を設立。昭和48年東方学院を設立し、学院長に就任。昭和49年紫綬褒章、昭和52年文化勲章受章。平成元年松江市名誉市民。

主な著書に『広説佛教語大辞典』（東京書籍）、『初期ヴェーダーンタ哲学史』（岩波書店）、『東洋人の思惟方法』シリーズ、『インド史』（春秋社）、他多数。

ごあいさつ

東方学院長
前田專學
（公益財団法人中村元東方研究所理事長・中村元記念館館長）

平成24年10月10日、私の長年の夢でありました恩師中村元先生の記念館が、大根島の中心に開設され、平成25年４月には、この記念館に東方学院松江校が、東京の東方学院本校と緊密な連携のもとに、開校されましたことは私の最大の喜びです。なぜなら大根とは、ものの根本中の根本、すなわち中村元の元を意味し、将来中海・宍道湖圏域の連携・発展の根本となり、元となり、中村元記念館と松江校がその象徴となることを願っているからです。

中村先生ご自身の書斎、毎日お使いになった34,000冊のご蔵書、その他数々のご遺品とともに、先生はこよなく愛された生まれ故郷の松江に帰ってこられました。先生は、一人でも多くの方々がこの記念館に集い、先生が開拓された学問の道を歩み、東洋の思想と文化の精華を吸収され、さらにそれを広く発信し、世界の平和と繁栄に貢献されることを願っておられるにちがいありません。

東方学院には報酬の有無を度外視して教えたいという意欲的な先生方にお集まり頂きました。当学院に入学するのに、年齢も性別も学歴も職業も問いません。唯一必須の入学条件は勉強に対する強い意欲です。それ故に東方学院では受講生とは言わず、研究会員と申します。一人でも多くの研究会員のお出でをお待ちしております。

東方学院とは

老若男女を問わず、誰もが東洋思想について学べる場所
――それが東方学院です。

東方学院は、インド哲学・仏教学の世界的権威である故中村元博士によって、1973年に財団法人東方研究会（現 公益財団法人中村元東方研究所）を母胎として設立されました。

「真に教えたい一人と、真に学びたい一人が集まれば学院は成り立つ」という中村博士の理念に基づき、学問のセクショナリズムにとらわれない現代の寺子屋として、東京本校・関西教室・中部教室で、多くの人々が東洋思想について教え、学び、日々研鑽を深めています。

そして平成25年４月、中村博士の出身地、島根県松江市の中村元記念館に東方学院松江校が開校されました。

「心の時代」といわれる現代社会、多くの人々が「どのように生きるべきか」という問いを抱えています。中村博士は生涯、インド哲学や仏教をはじめとした東洋の思想を通じて、私たちの「生きる道」を説き続けました。

学問とは真理の探究であり、その扉はいつでも、誰にでも開かれています。

あなたも東方学院松江校で、奥深い魅力にあふれた東洋の智慧を学んでみませんか？

◆ 東方学院の特徴

・真に学を究め、道を求めたい人々の学院です。学歴・年齢・職業・国籍・性別などを問いません。
・専門家のあいだの縄ばり意識の無い学院です。だれでも自由に学問を延ばすことができます。
・講師と研究会員との人間的連絡が緊密です。講師は懇切に指導をいたします。同学の人々とながく協同することが可能です。
・各講師は奉仕的に指導をいたしますから、若干の分野においては、日本におけるどの大学よりもはるかに詳しい講義がなされています。
・従来の大学ではなされていないテーマで斬新な講義や実習指導がなされています。
・学問には熱意が最も大切です。したがって熱意のある方々はいつでも入学できます。
・東方学院の講義を受講される方を本学院では「研究会員」と称します。

◆ 東方学院設立の経緯と意義

東方学院は、創立者中村元の東京大学退官とともに、昭和45年11月に文部省より財団設立の認可を受けた財団法人東方研究会（現公益財団法人中村元東方研究所）を母胎として、昭和48年に設立されました。

その大きな動機は、当時、大学に吹き荒れた学園紛争にともない、学術的には減退傾向にあり、また精神的な砂漠化のさなかにあって、学術的精神的な拠点となりうる、小さくともしっかりした学院をつくることにありました。そして学問の自由を制約することになる縄張り意識の強いセクショナリズムを廃して、真理探究を目的とする学問本来の姿を回復するためでありました。

大学の外につくることでセクショナリズムを脱し、またカルチャー・センターとも異なる一種の私塾、つまり現代の「寺子屋」として出発しました。真に教えたい一人と真に学びたい一人が集まれば学院は成り立つ ― これが創立者・中村元の信念であり、まさに東方学院の原点といえます。

幸いにも、このような考えに同調し、協力を申し出る人々が集まり、学院は開講されました。狭いビルの一角を間借りし手弁当を持ち寄って、文字どおりの「寺子屋」が始まったのです。

しかし、財団の基盤を強固にし、学院を発展させていくためには、しっかりとした学問研究の場所を確保する必要がありました。そこで、創立者の私財をもとに、財団設立に協力して下さった篤志家の方々が、昭和57年「財団法人東方研究会強化募金運動」を開始されました。一高時代の同窓生（「昭８文乙クラス会」のメンバー）である中村敏夫弁護士をはじめとして、同じく星埜保雄、宇佐見鉄雄、倉知善一、新井正明氏らが発起人となり、その資金集めから場所の確保にいたるまで実に並々ならぬご尽力を下さいました。そのおかげで、諸方面から多数の賛同者･協力者を得ることができ、現在のこの場所を入手するにいたりました。東方学院は、これらの人々によって築かれた土台の上に、今日成り立っております。

以来、当学院は、優れた数多くの講師を迎え、多くの方々の善意と学問への熱意によって支えられ発展して参りました。

今後も創立者の遺志を継承し、初心を忘れることなく、ますます発展していきますことを心より念願しております。

財団法人東方研究会
名誉理事長 **中村洛子**
(1919～2010)

※財団法人東方研究会は平成24年7月2日付けで、公益財団法人中村元東方研究所へと名称を変更しました。

東方学院松江校 2018年度講義一覧

定期講義

講義題目	講師名	回数	日程・時間	開講日	受講料	早割料金[注1]	詳細ページ
インドの説話　日本の説話	岡田真水	6	第２金曜日 13:30～15:00	4/6[注2]	8,200円	7,200円	8
仏教は何を説いて いるのでしょうか（前期）	三桐慈海	14	毎週木曜日 13:30～15:00	4/19	17,800円	16,800円	9
仏教経典解説（後期）	三桐慈海	10	毎週木曜日 13:30～15:00	10/4	13,000円	12,000円	9
中村元『ブッダの生涯』 講読	清水谷善曉	12	第３木曜日 15:30～17:00	4/19	8,200円	7,200円	9
東アジア世界の歴史と 文化の歩み	藤島建樹	12	隔週土曜日 10:30～12:00	4/21	15,400円	14,400円	10
観想行入門	清水谷善圭	6	第４木曜日 10:30～12:00	4/26	8,200円	7,200円	10
日本仏教美術入門講座	的野克之	6	第４土曜日 10:30～12:00	5/26	8,200円	7,200円	11
賢治自伝 ―宮沢賢治詩歌による試み	島田隆輔	6	第２火曜日 13:30～15:00	5/8	8,200円	7,200円	12
出雲学概論	藤岡大拙	6	第２水曜日 10:30～12:00	5/9	8,200円	7,200円	13
アジアの風土と民族音楽 ～音楽で辿るシルクロード 仏跡の旅	瀬古康雄	6	第２土曜日 13:30～15:00	5/12	8,200円	7,200円	13
歴史学入門 ～歴史的ヨーロッパの風景～	笠原愛古	6	第１土曜日 13:30～15:00	5/12[注3]	8,200円	7,200円	14
『無量寿経』を読む	齊藤舜健	6	第３金曜日 13:30～15:00	5/18	8,200円	7,200円	15
ラフカディオ・ハーンの 小説を読む	横山純子	6	第４日曜日 10:30～12:00	5/27	8,200円	7,200円	16
能海寛著『世界に於ける 佛教徒』を読む　その２	岡﨑秀紀	6	第４土曜日 13:30～15:00	10/27	8,200円	7,200円	17

集中講義

講義題目	講師名	回数	日程・時間	受講料	早割料金[注1]	詳細ページ
インド思想とダルマ ―この世界と私たちを支えるもの	丸井　浩	4	4/15（日）13:30～15:00 15:20～16:50 4/16（月）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	18
未来のほとけ ―弥勒信仰とその美術	宮治　昭	4	4/17（火）13:30～15:00 15:20～16:50 4/18（水）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	19
「熊野観心十界曼荼羅」を読む ―熊野古道の信仰	加藤みち子	4	5/5（土）13:30～15:00 15:20～16:50 5/6（日）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	20
法相五重唯識観について	松久保秀胤	4	5/26（土）13:30～15:00 15:20～16:50 6/23（土）13:30～15:00 15:20～16:50	5,800円	4,800円	21
画像で見る世界の宗教と哲学	吉田宏哲	4	6/4（月）13:30～15:00 15:20～16:50 6/5（火）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	22
マインドフルネスへの誘い ―『天台小止観』を読む―	三友健容	4	7/3（火）13:30～15:00 15:20～16:50 7/4（水）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	23
日本の近／現代の仏教 ―明治から平成まで	蓑輪顕量	4	8/4（土）13:30～15:00 15:20～16:50 8/5（日）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	24
心を観察する	横山紘一	4	8/18（土）13:30～15:00 15:20～16:50 8/19（日）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	24
仏教とイスラム教 その遠くて近い宗教関係	保坂俊司	4	9/6（木）13:30～15:00 15:20～16:50 9/7（金）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	25
仏教漢文講読：『維摩経』をよむ	山口弘江	2	9/14（金）13:30～15:00 15:20～16:50	3,400円	2,400円	26
仏教聖典へのいざない	釈　悟震	4	10/21（日）13:30～15:00 15:20～16:50 10/22（月）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	27
大乗仏教はかくして成立した	渡辺章悟	4	2019年 3/25（月）13:30～15:00 15:20～16:50 3/26（火）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	28
米国人が魅了されるアメリカ仏教 ―日本仏教の将来像となるか?	田中ケネス	4	2019年 3/30（土）13:30～15:00 15:20～16:50 3/31（日）10:30～12:00 13:30～15:00	5,800円	4,800円	29

注1：開講日の１週間前までに受講料をご入金いただくと、早割料金が適用されます。
注2：岡田真水先生の講義は４月６日のみ第１金曜日開催です。注3：笠原愛古先生の講義は５月12日のみ第２土曜日開催です。
講義日は変更になる場合があります。休講、日程変更などの情報は、中村元記念館ホームページでご確認ください。
http://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp/

2018年度　定期講義　講義内容

1　インドの説話　日本の説話　〈6回〉

おか だ しんすい
岡田真水

兵庫県立大学名誉教授
日本学術会議第23-24期会員
中村元記念館東洋思想文化研究所主任研究員

［日　　時］第２金曜日　13:30～15:00
（4/6、5/11、6/8、7/13、10/12、11/9）
＊4/6のみ第１金曜日開催
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］中村元他『ジャータカ全集』（春秋社）
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※３月30日までに受講料を納入された場合）

［講義のねらい］

日頃よく聞くあの話、あのことば―これは仏典のこの話が元だったのか！というものを集めて講義します。具体的には、法華経・涅槃経などの大乗仏典、賢愚経・撰集百縁経などの仏教説話集、パーリジャータカ、日本のおとぎ話などを取り上げます。

講義の中では、解説するだけでなく、毎回実際に経典の文章を輪読します。もちろん、読み下し文を味わうときは、現代語訳を用意して、平易に理解できるよう努めます。

また内容に関するワークショップを行い、参加型の時間を設けたいと考えています。それによって、聴講者の皆さんとの知の共有をはかり、講師からの一方通行の情報提供に終わることをさけることができれば幸いです。

法隆寺玉虫厨子や、北斎漫画、絵本なども用いて、立体的な説話の読み解きを目指します。図像学は説話の理解に役立つだけでなく、絵師が元とした話（出典）を特定することにも役立ちます。

［講義のテーマ］

1	4月 6日	法華経のことば
2	5月11日	貧者の一灯～小さな布施のものがたり
3	6月 8日	竜宮のおつかい
4	7月13日	月の兎
5	10月12日	雪山童子と羅刹
6	11月 9日	群盲撫象～インテグラルな知

2　仏教は何を説いているのでしょうか（前期）　〈14回〉

三桐慈海（みつぎり じかい）
大谷大学名誉教授
真宗大谷派妙覚寺住職

［日　　時］毎週木曜日　13:30～15:00（4/19、4/26、5/10、5/17、5/24、5/31、6/7、6/14、6/21、6/28、7/5、7/12、7/19、7/26）
［テキスト］レジュメ配布
［受 講 料］17,800円
（早割 16,800円　※４月12日までに受講料を納入された場合）

「仏教」とは仏陀（悟った人）釈尊（釈迦族の尊者）が説いた教ということで、またキリスト教徒やイスラム教徒などと対応させて、仏教徒とも使われています。彼らの教徒はその聖典を読誦し、その意義を理解しています。それでは仏教徒としてはどのようでしょうか。

日本の仏教は各宗派に分かれて、それぞれの宗派の聖典を所持しています。それは釈尊の悟りを自らに明らかにしようとして工夫を重ねてきた祖師とすべき人に、師事しようとして集まった人々によって、宗派が形成されたからです。従ってどの宗派の教説も釈尊の教えが基盤となっているのです。

釈尊の教えとその思想的展開は“仏教とは何か”ということで『仏教入門』の書物が多く著されています。しかし仏教入門の書を読むための基礎知識が必要であると思われます。そしてその基礎知識こそが仏教徒である人々に理解されなければならないものと考えます。

ここでは仏教は真実の帰依處であるとして、如何に生きるかを教えているものと考え、その基礎を共に学んでいきたいと思います。

3　仏教経典解説（後期）　〈10回〉

三桐慈海（みつぎり じかい）
大谷大学名誉教授
真宗大谷派妙覚寺住職

［日　　時］毎週木曜日　13:30～15:00（10/4、10/11、10/18、10/25、11/1、11/8、11/15、11/22、11/29、12/6）
［テキスト］レジュメ配布
［受 講 料］13,000円
（早割 12,000円　※９月27日までに受講料を納入された場合）

佛教の典籍はどのようなものか、大乗経典である般若経や法華経などは何を説いているのかを解説します。また経典を選んで実際の経文を解読します。

4　中村元『ブッダの生涯』講読　〈6回〉

清水谷善暁（しみずたにぜんぎょう）
特定非営利活動法人中村元東洋思想文化研究所理事
公益財団法人中村元東方研究所非常勤研究員

［日　　時］第３木曜日　15:30～17:00
（4/19、5/17、6/21、7/19、10/18、11/15）
［テキスト］購入が必要：中村元『ブッダの生涯』（岩波書店）
［参 考 書］中村元『ブッダ入門』（春秋社）、中村元『ゴーダマ・ブッダ 上・中・下〈普及版〉』（春秋社）
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※４月12日までに受講料を納入された場合）

昭和60（1985）年４月から９月にかけて、NHKラジオ第二放送で中村元先生によって行われた全26回にわたる連続講義「こころをよむ／仏典」の活字化された「仏典をよむ」シリーズが、新たに岩波現代文庫から出版されます。これにより、本シリーズの入手がより容易になりました。

本講義では、「仏典をよむ」シリーズの第１巻に当たる『ブッダの生涯』を講読していきます。

講義初回に、東方学院長でもある前田專學先生による解説に沿いながら、ブッダの生涯と経典の成立について確認していき、その後講読へと進む予定です。

なお、研究会員（受講者）には『ブッダの生涯』（岩波現代文庫）を購入していただく必要があります。

5　東アジア世界の歴史と文化の歩み　〈12回〉

ふじしまたてき
藤島建樹
大谷大学名誉教授
真宗大谷派圓浄寺住職

［日　　時］隔週土曜日　10:30～12:00
（4/21、5/19、6/2、6/16、6/30、7/7、7/21、10/6、11/3、11/17、12/1、12/15）
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］『中国の歴史（07）（08）』（講談社）
『アジアの歴史と文化（中国史近世1.2）』（同朋舎出版）
［受 講 料］13,000円
（早割 12,000円　※４月14日までに受講料を納入された場合）

東アジア地域の歴史的展開を辿って６年目に入ります。昨年度ようやく中国でいえば「宋」の時代に入りました。「唐宋変革期」とか「東洋的近世」のテーマで、学会で激しい論争が行われたように、漢民族国家も新しい国造りが行われました。しかしその改革も、内部抗争と周辺で興起した異民族王朝の圧力の中で停滞を余儀なくされ苦悩の時代となります。「遼」「西夏」「金」「元」と記される異民族国家の活動は、漢族中心の東アジアの動きを変えました。その影響は現在にも及んでいます。

「歴史に学べ！」「歴史を教訓に！」などの言葉は日常よく見聞します。しかし現代人は本当に歴史に学んでいるでしょうか。民族・領土・国家の語に起因する紛争のニュースは枚挙に暇がなく伝えられています。宗教すらもその武器に使われているようです。自己主張のみを述べるのではなく、歴史を正しく理解し、広く生命の平等・共存・共栄を確認しなければと思います。そのような想いを根底において学んでいきたいものです。

6　観想行入門　〈6回〉

しみずたにぜんけい
清水谷善圭
清水寺貫主
島根県仏教会会長

［日　　時］第４木曜日　10:30～12:00
（4/26、5/24、6/28、7/26、10/25、11/22）
［テキスト］レジュメ配布
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※４月19日までに受講料を納入された場合）

仏経の修業は全て観想行といっても過言ではなく、己を見つめ、仏を見つめながら、また念仏を唱え、山を歩きながら仏の姿形、仏の心を思い浮かべ、また悟りに至る道を思い廻らすことを申します。本講座は座禅を中心として様々な修行方法を学んでいただきます。

堅苦しく考えず、仏教を楽しく学び、楽しんで修行をしていただける講座にしていきたいと思っています。是非多くの皆様のお申込みをお待ち申し上げます。

7　日本仏教美術入門講座　〈6回〉

まと の かつゆき
的野克之
島根県立古代出雲歴史博物館学芸部長

［日　　時］第４土曜日　10:30～12:00
（5/26、6/23、7/28、10/27、11/24、12/22）
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］山本勉『仏像のひみつ』（朝日出版社）2006年
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※５月19日までに受講料を納入された場合）

日本の仏教美術を幅広く、時代順に見て行こうという講座です。６世紀日本に仏教が正式に伝わった際に、日本人はその教えより先に、仏像のキラキラとした姿に衝撃を受けています。平安時代には留学僧達によって大陸から仏教の経典と共に数多くの図像がもたらされ、それを元に仏像や仏画、工芸品などが数多く制作され、当時の貴族達の支持を得ました。鎌倉時代には運慶などの仏師たちによって力強い仏像が制作され、源頼朝をはじめとする武士達の支持を得ています。室町時代には禅宗美術が天皇、貴族、武士といった幅広い権力者たちを虜にしました。江戸時代には庶民達が力を持ちはじめます。その庶民が好んだ美術の中にも仏教に基づいた作品も実は数多く作られました。円空や木喰などこの時代ならではの仏師も登場します。幕末明治になると、たとえば美術とは一見かけ離れた見世物小屋などでも、仏教の知識がなければ理解出来ない出し物が造られています。

この様に日本美術は、日本人の仏教への理解や知識、あこがれがベースとなっているものがいくらでも存在します。この講座では、仏像や仏画を中心とした日本仏教美術を見て行きながら、日本文化にとって仏教の果たした役割を考えます。時代ごとに日本美術を見て行くと、それぞれその時代に力を持ったものに好まれた美術が、その時代を代表する美術になっていることが分かります。

今回の講座では、王道の仏像や仏画だけでなく、見立てや、ご開帳、そして見世物など日本仏教美術史の書物に出てこないジャンルものぞき見してみようと思います。聞きやすいように、各回年代で区切ってお話しします。限られた時間ですので、単に時間順にお話しするのではなく、その年代ごとに重要な作品をピックアップしてじっくりとお話しします。

１．飛鳥時代・奈良時代－仏教伝来・あこがれの大陸
２．平安時代－最澄・空海の時代
３．鎌倉時代－運慶・快慶の活躍
４．室町時代－禅宗寺院と美術
５．江戸時代－庶民の美術と仏教
６．幕末明治時代－見世物と博覧会（番外：神々の描かれ方）

8　賢治自伝 ―宮沢賢治詩歌による試み　〈6回〉

しま だ たかすけ
島田隆輔
中村元記念館東洋思想文化研究所研究員
博士（文学）

［日　　時］第２火曜日　13:30～15:00
（5/8、6/12、7/10、10/9、11/13、12/11）
［テキスト］レジュメ配布
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※５月１日までに受講料を納入された場合）

学生時代の宮沢賢治は日記のように短歌をつくって『歌稿』としてまとめ、青年賢治は日付を付した心象スケッチを書きつづってきた。そして晩年の賢治は、少年時代から現在にいたる自分史を企図した『文語詩篇ノート』を針路として、それまでの短歌や心象スケッチなどを素材として、1930（昭５）年から文語詩を本格的に制作しはじめた。

それは、33（昭８）年９月の死の一か月前まで集中的におこなわれ、定稿集の成立をみるにいたる。その間、文語詩の性格は自分史などをもう超えていったとかんがえられるけれども、その生成過程をみると、賢治自身の体験が基盤にあるのはまちがいない。

そうした基盤となっている文語詩によって、編年の詩譜をつくれば、〈賢治自伝〉が形成されるのではないか。

〈賢治自伝〉を試みる、この講座では、

１）中学時代（盛岡中学校）
２）高農時代（盛岡高等農林学校）
３）教師時代（稗貫／花巻農学校）
４）協会時代（羅須地人協会）
５）技師時代（東北砕石工場）
６）死と向きあって

という区分によって、それらの時期それぞれに発生した事件をとりあげているものを、のこされた文語詩群のなかから抽出して、賢治自身がそれぞれの事態をどううけとめていたのかをみてゆきたい。

2018年度は、中学時代についてみてゆきたい。

9　出雲学概論　〈6回〉

ふじおかだいせつ
藤岡大拙
荒神谷博物館館長
松江歴史館館長

［日　　時］第２水曜日　10:30～12:00
（5/9、6/13、7/11、10/10、11/14、12/12）
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］藤岡大拙『出雲人』（ハーベスト出版）2014年
『出雲国風土記』（加藤義成校注）（今井書店）2015年
藤岡大拙『神々と歩く出雲神話』（NPO法人出雲学研究所）2010年
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※5月2日までに受講料を納入された場合）

古代出雲を中心に、出雲神話、神祇信仰、神社の実態、神仏習合過程等を述べ、続いて大和政権の支配下に入ってからの出雲が、どのような歴史を辿るかを、伊勢と出雲の二極の相関関係の中で考え、現在の出雲のよって来る歴史的因子を探りたい。

10　アジアの風土と民族音楽 ～音楽で辿るシルクロード仏跡の旅　〈6回〉

せ こやすお
瀬古康雄
シタール奏者
しまねガムラン主宰
島根県立大学短期大学部
非常勤講師

［日　　時］第２土曜日　13:30～15:00
（5/12、6/9、7/14、9/8、10/13、11/10）
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］参考書は特に定めませんが、参考文献を適宜提示するとともに、授業で使用したＣＤやＤＶＤを閲覧可能にします。
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※５月５日までに受講料を納入された場合）

アジア各国の伝統的な民族音楽や舞踊はそれぞれの国の自然や文化に深く根ざしているように感じられます。インド、中国、そして日本、それぞれの音楽は、その国の人々に世代を超えて愛され、いわば、「自己の存在了解の仕方」とでも言うべき「風土性」を持っています。この講座は、民族音楽は初めてという人のための入門講座で、インド音楽を中心にして、現地で収録したビデオや熊野大社で行われた庭火祭などの日本公演のビデオを鑑賞します。今年度は、仏教伝来の跡をたどって、シルクロードの伝統音楽を取り上げ、シルクロード各地の仏跡の今昔についても考えてみたいと思います。

11　歴史学入門 ～歴史的ヨーロッパの風景～　〈6回〉

かさはらなるひさ
笠原愛古

中央大学政策文化総合研究所客員研究員
中村元記念館東洋思想文化研究所研究員
中村元記念館学芸員

［日　　時］第１土曜日　13:30～15:00
（5/12、6/2、7/7、8/4、9/1、11/3）
＊5/12のみ第２土曜日、8/4のみ10:30～12:00開催
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］服部良久／南川高志／山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史［古代・中世］』（ミネルヴァ書房）2006年
アラン・コルバン編『キリスト教の歴史　現代をよりよく理解するために』（藤原書店）2010年
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※５月５日までに受講料を納入された場合）

中村元博士は「現実の社会の変化を顧みない思想史研究というものは、十全な意味において成立しえない」とされ、また「思想史の問題を追求する場合には、現実の世界史との関係が当然問題となる。」と、歴史を学ぶことの重要性を説いておられました。

第二次世界大戦以後、東西冷戦の終結とＥＵ（欧州連合）の成立によって、世界は中村博士が認識されていたように「一つになる方向に進んでいる」かに見えました。しかし2016年にイギリスは国民投票によってＥＵからの離脱を決定し、アメリカにおいても新しい大統領によって、２度にわたり特定の外国人の入国を禁止する大統領令が発せられました。2017年のスペインにおけるカタルーニャの独立宣言も記憶に新しい出来事でしょう。私たちはこの現実世界をどのように理解すればよいのでしょうか。

生涯に3000点以上の業績を遺したフランスの歴史家リュシアン・フェーブルは、第二次世界大戦の傷もいえぬ1946年に専門誌上で次のように宣言しました。「我々は物的財産のすべてを、あるいはほとんどすべてを失った。しかし精神が残されている限り我々は何も失ってはいない。世界を世界に説明しよう。歴史学によって」。学問としての歴史は、過去の事実のら列ではなく、因果関係を説明する学問です。この講義ではそうした歴史学のものの見方、考え方を学びます。

昨年度の講義は、「「北欧人」あるいはヴァイキングの思惟方法」と題して、「中世」概念の説明を皮切りに、現在の北欧中世史研究の動向、ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の講演録「古代北欧の生活倫理」などを読んでいきましたが、今年度は、現代のヨーロッパの基礎が形作られた「中世」という時間的枠組みはそのままに、具体的には500年頃から1500年までを中心として、フランク王国の成立から大航海時代前夜までを概観し、後半はこうした歴史像がどのようにして形作られたのか、歴史家がどのようにして過去を描くのかを見ていきます。

※受講にあたっては、高校世界史までの知識の有無は問いません。初学者も歓迎いたします。また授業計画はあくまで予定です。受講者の要望により変更する場合があります。

（授業計画）

① 歴史学とは何か？
② 西ヨーロッパの世界
③ 東ヨーロッパの世界
④ ベルギーの歴史家と歴史叙述
⑤ フランス・ドイツの歴史家と歴史叙述
⑥ 日本の「西洋史」学

12 『無量寿経』を読む 〈6回〉

さいとうしゅんけん
齊藤 舜健

浄土宗総合研究所主任研究員

［日　　時］第3金曜日　13:30～15:00
（5/18、6/15、7/20、10/19、11/16、12/21）
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］浄土宗総合研究所編『現代語訳浄土三部経』（浄土宗出版）2011年
中村元他『浄土三部経』（岩波文庫）1990年
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※5月11日までに受講料を納入された場合）

我が国では浄土系宗派の信者が全仏教徒の約半数を占め、それらの浄土系宗派の多くは法然（1133-1212）から始まる。法然がその教えの根拠としたのが『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』の三経典で、浄土三部経と呼ばれる。そのうち『無量寿経』には、阿弥陀仏が仏となった経緯、阿弥陀仏によって救われる理由などが述べられている。これは中国の善導（613-681）や法然の理解を通すことで、わが国の浄土教・阿弥陀仏信仰の根元となった。信徒数の多さとあいまって、この方面でのわが国の精神文化への影響は尽大なものといえよう。

一方で、インドの初期大乗仏教以来の菩薩思想、現在他方の諸仏の思想に基づく経典でもある。『無量寿経』は漢訳されて以後、中国において多くの註釈研究があり、わが国でも伝来以後様々に理解されてきた。特に法然以後は浄土系諸宗派の宗義学の立場からの研究の積み重ねがあり、内容の理解はもちろん、語句や構文の理解に到るまで、宗義学的な裏づけ、後付の解釈が与えられている。その影響は極めて大きく、それらの理解を離れての『無量寿経』読解は困難な点がある。そこで本講座では、インド仏教と法然の浄土教という二つの方向から『無量寿経』を読み解く。

30年度は29年度からの継続で、阿弥陀仏の前身である法蔵菩薩の菩薩行についての条から読み始める。なお、29年度までに読了した阿弥陀仏の本願建立を前提とするので、初回にはそこまでの内容を解説する。

13　ラフカディオ・ハーンの小説を読む　〈6回〉

よこやまじゅんこ
横山 純 子
中村元記念館東洋思想文化研究所研究員

［日　　時］第４日曜日　10:30～12:00
（5/27、6/24、7/22、10/28、11/25、12/23）
［テキスト］購入が必要：ラフカディオ・ハーン著・平川祐弘訳『カリブの女』（河出書房新社）1999
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※５月20日までに受講料を納入された場合）

昨年度はラフカディオ・ハーン（Lafcadio Hearn、1850-1904）の『日本瞥見記』の中の来日初期の作品に焦点をあてて、その表現について考察したが、今回は来日する前のアメリカ時代の作品について取り上げ、日本時代との作品とのつながりを見ていきたいと思う。

1869年にアメリカに渡ったハーンは、新聞記者となり研鑽を積み、アメリカ時代に小説を書きたいという夢を抱き、1889年に『チタ』（Chita）、1890年に『ユーマ』（Youma)といった小説を出版している。

ChitaはLafcadio Hearn（1850-1904）が1883年に聞いたデルニエール島のハリケーンで生き残った少女の話を基に書かれた。この作品は1888年４月に『ハーパーズ・マンスリー』（Harper's Monthly）に載り、1889年にハーパー・ブラザーズ（Harper & Brothers）社より単行本として出版されたものである。ハリケーンが来て母親を海で亡くした主人公のチタは、漁師に助けられ、その夫妻に引き取られ、育てられた。成長したチタの元に偶然に本当の父親が現れるが、その父親は伝染病に罹り、瀕死で親子のなのりをあげないうちに、亡くなるという話である。チタは従来の評価ではプロット、人物像が弱いとされ、小説としては失敗作とみなされてきたものである。人物像は弱いところはあるが、そのかわりに海があたかも登場人物に一人であるかのような役割を果たしている。

また『ユーマ』はハーンが1888年10月頃題材を得て、実話を元に執筆をしたものであり、1889年２月頃脱稿し、1890年１月と２月に『ハーパーズ・マンスリー』に載り、1890年５月にハーパー・ブラザーズ社より単行本として出版されたものである。『ユーマ』は序章と14章からなる中編小説である。黒人奴隷の乳母ユーマの話で、強い意志の持った女性で、蛇を足で押さえて自分が乳母をしている白人の子供を助けたり、暴動の中でその白人の子供を守って一緒に焼死する。

小説としては不成功ではあるが、二つの話には人種を超えた母性愛が描き出されており、これら二つの小説には母への憧憬があますところなく語られている。これら二つの小説を再評価してみたい。

14　能海寛著『世界に於ける佛教徒』を読む　その２　〈6回〉

おかざきひで き
岡﨑秀紀

中村元記念館東洋思想文化研究所研究員
学芸員
能海寛研究会会長

［日　　時］第４土曜日　13:30～15:00
（10/27、11/24、12/22、1/19、2/23、3/23）
［テキスト］配布資料
［参 考 書］能海寛『能海寛遺稿』（五月書房）1998年
［受 講 料］8,200円
（早割 7,200円　※10月20日までに受講料を納入された場合）

2017年度講座では、チベット求法僧･能海寛著の『世界に於ける佛教徒』（明26）をとりあげ全章を音読し、能海寛の思想、考え方、取り組みの全体像を知ることができました。現代に通じる、あるいは問われている、仏教改革の先進的な内容に心打たれるものがありました。特に仏教は世界仏教であるとして、その理由・背景を解説しています。欧州の仏教事情と海外宣教、西蔵探検の必要、本山政論などは、当時の仏教界への問題提起となりました。中村元博士が「明治時代としては断然新しいもので、仏教界に問題を投げかけるものであった」と評価されたことの意味が理解できました。

今回の講座では、『世界に於ける佛教徒』を前回よりも精読することにします。６回の講義では、前年度の成果を活かし、全文の逐語訳を重ね、意訳して分かりやすい現代語に直します。最終的には用語解説を加えて冊子として出版することに挑戦します。受講の皆さんと分担して内容・項目の調査や文章解読に取り組みます。書かれている関係情報（例えば、能海と交流があった内外の仏教研究者、参考書籍名）を調査することで、知的探検の体験ができます。本書を精読することによって、明治中期の仏教革新の躍動、新仏教徒時代の到来を知ることができます。

2018年は能海寛生誕150年にあたります。能海寛研究会では７月７～８日に記念事業を計画しております。初日は総会、研究発表、２日目は記念式典、基調講演「能海寛が日本の若者に伝えたかったこと」、シンポジウム「今、能海寛から学ぶもの」（基調講演、コーディネータとも江本嘉伸氏＝『西蔵漂泊』『能海評伝』著者）を行います。能海の業績をさらに理解できる機会だと考えます。

能海寛（のうみ　ゆたか　1868-1901）

島根県浜田市金城町波佐、浄蓮寺に生まれる。宗教家・チベット仏教求法僧。京都普通教校、慶応義塾、哲学館（のちの東洋大学）で、普通学、英語、仏教学、東洋思想･哲学などを学ぶ。明治26年、『世界に於ける佛教徒』を出版し、チベット探検の必要性を訴える。明治31年チベット入国を目指し中国大陸へ。翌年より３年間にわたり四川省、青海省、雲南省からの入蔵を目指す。明治32年８月11日、四川省巴塘に進み、日本人初の入蔵者となった。また､明治33年３月26日打箭爐で完訳した「般若心経西蔵文直訳」は専門家の高い評価を受けた。最終的に明治34年、雲南省奥地の徳欽付近で消息を絶つ。将来した西蔵仏教経典はじめ､『進蔵朝佛記』等の旅日記､「甘粛論」などのフィールドワークの成果等が残された。死後まとめられた寺本婉雅編『能海寛遺稿』（大正６）で能海の業績「般若心経西蔵文直訳」をはじめ、西蔵観をはじめ旅行行程、書簡などを知ることができる。

『世界に於ける佛教徒』の内容構成

第１章　宗教の大革新	第10章　仏教徒の連合
第２章　新仏教徒	第11章　仏蹟回復
第３章　宗教学上の仏教	第12章　総会議所
第４章　哲学上の仏教	第13章　巡礼
第５章　歴史上の仏教	第14章　海外宣教
第６章　道徳上の仏教（戒律論）	第15章　仏教学校
第７章　比較仏教学	第16章　仏教翻訳
第８章　サンスクリット（梵学）	第17章　本山政論　第一
第９章　仏教国の探検	第18章　本山政論　第二
西蔵国探検の必要	

2018年度　集中講義　講義内容

15　インド思想とダルマ ―この世界と私たちを支えるもの　〈4コマ〉

丸井（まるい）　浩（ひろし）
公益財団法人中村元東方研究所　常務理事

［日　　時］4月15日(日) 13:30～15:00，15:20～16:50
　　4月16日(月) 10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］レジュメ配布
［受 講 料］5,800円
　　(早割 4,800円　※4月8日までに受講料を納入された場合)

インド思想を特徴付ける最大のキーワードは、「ダルマ」でしょう。「ダルマ」には実に多くの意味が含まれています。代表的な意味を並べただけでも、「法、正義；規則、法則；慣習；権利；義務」という具合です。しかしそうした多様な意味のもとには、「支える」「維持する」という動詞の意味が生きています。そして、①「秩序」「理法」(「法則」「真理」なども）と、②「なすべきこと」「規範」(「務め」「慣習」や「正義」「善」なども）という二つが、ダルマの基本的な意味であると言えましょう。

しかし何よりも重要なことは、ダルマという言葉には、そのような**秩序と規範の両面が一体的**に捉えられていることです。

インド最古の宗教であるバラモン教では、聖典ヴェーダが、神々に供物を捧げる祭祀行為を「なすべき務め」として人々に命じており、その祭祀の務めを「ダルマ」と呼んでいます。しかしただ闇雲に祭祀の務めを実践せよ、と命じているのではありません。なぜ人は祭祀を行い、神々に供物を捧げなければならないのか、それを説明する理屈、思想がしっかりとあるのです。つまり、神々の多くは自然神（太陽神、風神、雨神など）ですが、おのおのの神がそれぞれ自然界の各領域の秩序維持に関わっており、太陽の規則的な運行は太陽神によって維持されているとか、降雨は雨の神が司るという具合です。したがって、そうした自然界の秩序を維持する神々の力を維持・増大させるために、人は捧げものをしなければならないというわけです。また自然界の秩序を維持する神々の営みもまた「ダルマ」（務め）あるいは「誓い」（ヴラタ）と呼ばれます。

図式的に整理すれば、ダルマは自然界の秩序・理法であり、かつその理法に適った務めもダルマと呼ばれるのです。「ダルマは守られるとき、（ダルマを守る人を）守る」は一種の格言となっています。

仏教もまたダルマと密接に関連しています。「ブッダ」とは「ダルマに目覚めた方」のことです。「ダルマ」はパーリ語では「ダンマ」、漢訳では「法」、そして中村先生はしばしば「理法」と訳されました。また、「法を見るものは私（ブッダ）を見、私（ブッダ）を見るものは法を見る」という釈尊の言葉が原始仏典に見られます。さらにはブッダの遺誡の一つが「自己にたよれ、法にたよれ」でした。そして仏教のダルマもまた、理法と規範の両面が含まれていることが認められます。「実にこの世において怨みに報いるに怨みを以てしたならば、怨みはついに息むことがない。怨みを捨ててこそ息む」と述べて、最後に「これは永遠の真理（ダンマ）である」と結んでいます（『ダンマパダ』第5詩）。人とは、世の中とは、世界とはそういうものだ、だからこれこれのことをしなさい、という考え方がダルマの宗教には見られるのです。

こうした「秩序・真理」と「規範・倫理」とを一体的に捉えるインド古来のダルマの思想は、持続可能な地球社会が求められる現代において、きわめて重大な意義があるはずです。「持続可能な」を意味する「サステナブル」も、「支える」「維持する」を意味する動詞（sustain）がもとになっています。

本講義では、インド古来のダルマ観を現代的な視点から再評価する試みをしたいと思います。

16　未来のほとけ ―弥勒信仰とその美術　〈4コマ〉

宮治　昭（みやじ　あきら）
名古屋大学名誉教授

［日　　時］4月17日(火) 13:30～15:00，15:20～16:50
4月18日(水) 10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］宮治昭『仏像を読み解く～シルクロードの仏教美術～』(春秋社) 2016年
宮治昭『仏像学入門～ほとけたちのルーツを探る～』(春秋社) 2013年
［受 講 料］5,800円
(早割 4,800円　※4月10日までに受講料を納入された場合)

弥勒菩薩といえば、京都・太秦の広隆寺や奈良・斑鳩の中宮寺の半跏思惟像を思い浮かべる方も多いと思います。しかし、半跏思惟像がすべて弥勒菩薩というわけではありません。弥勒菩薩は部派（小乗）仏教でも、大乗仏教でもアジアで広く信仰された「ほとけ」です。それだけにその信仰と美術（造形）は多様な展開を見せています。

弥勒菩薩の最も大きな特徴は、釈尊のあとを継いで、将来仏陀となり、釈尊の説法から漏れた多くの人々を悟りに導いてくれる未来仏という性格です。東アジアでは救世主的な性格をもったほとけとして信仰されたことも少なくありません。

今回は弥勒信仰の成立にまで遡って、弥勒信仰とその美術がどのように形成され、展開したかをお話ししたいと思います。

仏弟子であった弥勒は、釈尊から将来仏陀となる授記（予言）を受け、兜率天に上生して神々に説法し、遠い将来、転輪聖王のもとで平和で豊かな世界となった時、弥勒はこの世に下って龍華樹の下で悟りを開き、3回にわたって説法するとされます。弥勒信仰には、兜率天にいる弥勒菩薩のもとに生まれたいという「上生信仰」と、弥勒がこの世に下った時に弥勒仏に会って救われたいという「下生信仰」との二つの信仰に分かれますが、それらがどのように形成されたか、経典と美術からそのあり様をお話しします。

（1）弥勒経典と弥勒信仰
（2）半跏思惟菩薩像について
（3）弥勒上生信仰とその美術
（4）弥勒下生信仰とその美術

17 「熊野観心十界曼荼羅」を読む ―熊野古道の信仰 〈4コマ〉

加藤（かとう）みち子
中村元東方研究所専任研究員
学習院大学・青山学院大学非常勤講師

［日　　時］5月5日(土) 13:30～15:00，15:20～16:50
5月6日(日) 10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］レジュメ配布
小山靖憲『熊野古道』（岩波新書）2000年
豊島豊『熊野信仰の世界』（慶友社）2013年
［受 講 料］5,800円
（早割 4,800円　※4月28日までに受講料を納入された場合）

紀伊半島にある「熊野古道」は、熊野三社とよばれる神社への参詣道です。「紀伊山地の霊場と参詣道」が、世界文化遺産に指定された2004年以降、年々熊野古道を訪れる人が増えていますが、熊野にはどんな神さまが祀られているのか、熊野信仰とはどのようなものかについては、よく知られていないようです。

本講義では、熊野信仰を広めた熊野比丘尼（くまのびくに）が、「絵解き」をしたことで知られる「熊野観心十界曼荼羅（くまのかんじんじゅっかいまんだら）」というマンダラ図を手掛かりに、熊野信仰とはどのようなものであるか、読み解いていきたいと思います。

第1回：「熊野観心十界曼荼羅」とはどんな絵か―六道輪廻と閻魔大王

大きな画面にいろいろな内容が描きこまれている「熊野観心十界曼荼羅」ですが、図像内容としてもっとも有名なのは、地獄や六道輪廻の図像です。いわゆる閻魔大王も描かれています。1時間目は、絵の全体の中で、特に閻魔大王とはどのような存在か、六道輪廻とはどのような世界観であるかをみていきます。

第2回：「十界」のマンダラである理由―救済のモチーフの発見

2時間目は、この図が単なる「六道輪廻図」や、「地獄絵」とは異なり、「十界図」であることに注目します。この図の中にちりばめられた、お釈迦様、お地蔵様、観音様などの「救済」のモチーフについて、経典のエピソードとともにご紹介していきます。

第3回：「老いの坂」図と熊野の山岳信仰―修験道絵画という視点から

本図の上部には、「虹のかけはし」とか「老いの坂」とよばれる図があります。図像の下のほうに描かれる六道輪廻図とは異なり、老若男女が歩いている図像です。3時間目は、この図がいったい何を意味しているのか考えます。修験道の「霊山マンダラ」という視点でみていくことで、熊野信仰につながる、この図像の意味が浮き彫りになります。

第4回：真ん中の「心」という文字は何を意味するか

4時間目は、この図の真ん中に描かれる「心」という文字に注目します。ここで、なぜこの図が、「観心」の「十界曼荼羅」と呼ばれるのかが分かります。なお、この図の、「心」から飛び出す「十界」というテーマが、江戸時代の庶民信仰にどのような影響をあたえているかを紹介して、熊野信仰の日本の思想や文化への影響をまとめます。

18　法相五重唯識観について　〈4コマ〉

松久保 秀胤（まつくぼ しゅういん）
薬師寺長老
公益財団法人中村元東方研究所　理事

［日　　時］5月26日(土) 13:30～15:00，15:20～16:50
　　6月23日(土) 13:30～15:00，15:20～16:50
［テキスト］適宜
［受 講 料］5,800円
　　(早割 4,800円　※5月19日までに受講料を納入された場合)

唯識教学は日本仏教の基本教学である。従って佛教大学では基礎学科として教科カリキュラムに編成されている。

唯識教学は「阿含経」に端緒を発し、釈尊滅後九百年にして無著（アッサンガ）大士が弥勒菩薩に請願して「解深密経･法相品」に相当する経典を請受し、舎弟世親大士（ヴァスバンドゥ）が翻経して「唯識三十頌」を製頌したと伝承している。

唯識教学は六経十一部論の教相を含んでいる。すなわち華厳経、阿毘達磨経、入楞伽経（にゅうりょうがきょう）等及び瑜伽論、摂大乗論、観所縁々論、二十唯識論、弁中辺論、十地論、荘厳大乗論、顕揚聖教論、等十一部の註釈論書をもって「成唯識論」十巻本としている。これらの論書を註釈に従事した論師を十大論師と称するが、護法論師の註釈を正依釈としている。唯識教学の体制を遂げるのはインド・ナーランダ大講堂において護法・戒賢大士によって、四・五世紀である。中国に伝来する歴史としては真諦三蔵、法顕三蔵、について玄奘三蔵である。

玄奘三蔵は、隋代末期世相混乱期に成都において学び、南伝系経典と北伝系経典の差異に疑網を感じで渡印を志ざし、ナーランダ大講堂にて戒賢大士より「護法唯識」と称される唯識思想大系の授学を受けて貞観十九年長安に還京する。

玄奘三蔵は、顕密両教経典を請来されていたが、唯識教学原典翻訳については窺基を始め、九師に訳経を企図されるが、学統の煩雑を避けるために九捨一合糅訳と呼称される如く、学派教相の整合性を求めて、窺基師に托し、法相唯識宗の宗祖は窺基（慈恩大師と称す）である。親近弟子である恵沼、智周両師の傑出した弟子を輩出し、「成唯識論述記」「成唯識論樞要」「成唯識論了義燈」「成唯識論演秘」等四類本をもって本論の主要註釈本としている。

中国においても唐代から明清時代まで唯識教学は法相系、華厳系、天台系、真言系、浄土系、楞伽系（禅宗）と多岐にわたって教相は継承された。

日本に伝授された唯識教学は孝徳天皇白雉４年(653)遣唐船によって入唐した僧道昭が天智天皇元年(662)帰朝され､明日香元興寺東南の禅院寺に「成唯識論」十巻を納入された史事が「三代実録」に記録されている。これが「法相唯識」日本の初伝である。その後、智通、智達両師が第二伝師であり、智鳳、智鸞、智雄三師は第三伝師であり、玄昉は第四伝師（興福寺伝）である。

奈良平城京を中心に義淵（三輪）善珠（平城）賢憬（平城）平備（斑鳩）徳一（筑波）空晴（春日）蔵俊（春日）真興（飛鳥）明詮（洛東）貞慶（笠置）良遍（生駒）凝然（平城）高範（西の京）旭雅（洛中）定胤（斑鳩）泰禅（永平）等唯識学僧が連珠の如く脈々と唯識教学は伝灯している。

日本においても法相唯識教学は中国と同じ六類系に大別される教学僧と大学教授が教相を伝承している。東方学院松江分校で担当する講座は90分を四区分６時間での講義を終了するカリキュラムを組む都合上、上述のように法相唯識教学が五教態に分派している関係上、教学の根幹に基づいて枝葉條網の差異を取捨活脱した「法相五重唯識観」と題する下記の教課題目で講義をします。

一　捨濫留純唯識観
二　摂末帰本唯識観
三　隠劣顕勝唯識観
四　遣虚存実唯識観
五　遣相証性唯識観

19　画像で見る世界の宗教と哲学　〈4コマ〉

よし だ ひろあき
吉田宏哲
大正大学名誉教授
博士（文学）
真言宗智山派宥勝寺住職

［日　　時］6月4日(月) 13:30～15:00，15:20～16:50
　　6月5日(火) 10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］レジュメ配布
　　中村元『普遍思想』（春秋社）
［受 講 料］5,800円
　　（早割 4,800円　※5月28日までに受講料を納入された場合）

今日の世界はイスラム過激派のテロと、北朝鮮の核ミサイル開発の対応に明け暮れている感があります。そしてこの対応は一歩誤れば世界の破滅にもなりかねない様相を呈していて、誰しも無関心ではいられない事態であると言えましょう。ところで、テロや戦争は必ず誰かの死傷を引き起こしますが、テロや戦争で死ななくても、人間は誰でも必ず自分や、自分の愛する者の死を迎えなければなりません。したがってこれにどう向き合うかとか、どのように対処するかは、今健康な人でも、今幸せな人でも、老若男女を問わず、必ず直面しなければならない問題だと思います。

けれども実際には私たちは、今、差し迫った目の前のこと以外には、なかなか目を向けるということをいたしません。特に若くて健康な人は自分の死などは遠い先の話だと思っていますから、今をどう生きるかに腐心して、自分の老病死について真剣に考えることもないと思います。したがって死についての方策である宗教についても、無関心、無知である人が殆どでしょう。

しかし、自分の死は必ずやってきますし、突然、自分の身内や、親友が亡くなることがあります。その時、その悲しみをどう乗り越えるか、これに対する回答の提示が宗教だと思います。そこでこの講義では画像を用いて、世界の宗教の違いとその特徴を明らかにしたいと思います。

また死を考えることは生を考えることですから、世界の哲学や倫理、科学についても宗教との関連で講義する予定です。

目　次

1　宗教の起源
2　民族宗教と普遍宗教
3　死後身体はどうなるかについての二種類の考え。輪廻転生と復活
4　仏教の解決
5　諸宗教の歴史的な考察
6　宗教と哲学と科学
7　仏教の伝播と理論的な展開（中観・唯識・如来蔵）
8　中国の儒教と道教と仏教
9　日本の神道と仏教
10　救いと悟り

20　マインドフルネスへの誘い ―『天台小止観』を読む―　〈4コマ〉

三友健容（みともけんよう）
立正大学名誉教授
文学博士
法華経文化研究所顧問

［日　　時］7月3日(火) 13:30～15:00，15:20～16:50
　　7月4日(水) 10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］購入が必要（関口真大『天台小止観』岩波文庫）
［参 考 書］三友健容『天台四教儀談義』（大法輪閣出版社）
　　新田雅章『天台小止観』（春秋社）
［受 講 料］5,800円
　　（早割 4,800円　※7月26日までに受講料を納入された場合）

最近、過労死対策として企業や教育の場で注目されているひとつにマインドフルネスがある。マインドフルネスとはもともと仏教の坐禅瞑想法を応用したアメリカの心理療法である。現代社会は目まぐるしい時間のながれと過重な労働によって、死にそうなほどのストレスにあふれている。苦悩するひとびとにとって、マインドフルネスはまさに病の良薬のようにストレス解消法として大変評判になっている。

ところで仏教学とは、実証学であり単なる文献学ではない。さとりを求めない仏教学はなく、まさに智慧のまなこと修行の足の必要性が強調されている（智目行足）。しかも仏教とは戒定慧の三学に尽きる。そのひとつである定（坐禅瞑想）が古くから重視されてきた。釈尊がさとりを開かれたのも「禅定」によるものであって、神の啓示を受けたり、ある日突然さとったものではない。

毎日の生活に「戒」（正しい生活習慣）を実践して身につけていけば、おのずとこころは穏やかになって「定」（坐禅の心境）が得られ、智「慧」（正しい判断力）が身につく。

坐禅というと、すぐ禅宗の専売特許であるかのように誤解するひともいるが、天台智者禅師智顗（天台大師）は、稲麻竹葦のごとき仏教教理を五時八教判によって分類し、『法華経』をもとに仏教の本道を講述し、世に天台三大部（『法華玄義』『法華文句』『摩訶止観』）として広く学ばれ、このうちの『摩訶止観』は、仏教経典に散説する坐禅について詳述し、そのエッセンスともいうべき『天台小止観』（『修習止観坐禅法要』『略明開曚初学坐禅止観要門』）は仏道修行を実践する者たちの座右の名著となってきた。

本講義では、天台智者禅師智顗の名著『天台小止観』をもとに、仏教のマインドフルネスとは、どういうものか、しっかりと古典を読んで正確に理解し、正しい坐禅実践の方法を体得してもらい、日常のストレスを解消してもらう予定である。

21　日本の近／現代の仏教―明治から平成まで　〈4コマ〉

みのわ けんりょう
蓑輪顕量
東京大学大学院人文社会系研究科　教授

［日　　時］８月４日（土）13:30～15:00，15:20～16:50
８月５日（日）10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］オリオン／クラウタウ『近代日本思想としての仏教史学』（法藏館）2012
［受 講 料］5,800円
（早割 4,800円　※7月28日までに受講料を納入された場合）

本講義は近代仏教の展開に焦点を当てる。注目されるのは、東京大学に始めてインド哲学仏教学の講座がおかれて、近代ヨーロッパの研究が流入したことである。この中で、原旦山、村上専精などが活躍することになった。しかしながら、一方では、宗門を中心として活躍する人物たちも、複数名いたことを忘れてはならない。また、海外への留学を志す、研究者も多数、輩出された。このような歴史を振り返りながら、日本の仏教が、どのような変化を蒙っていったのか、考察することを第一の目的とする。

さて、実際の講義では、明治以降、注目される人物を何人か撰びたい。その時に、学問としての観点から注目される人物として、島地黙雷、原旦山、村上専精、木村大賢等を取り上げたい。次に、行の面で注目される、上座仏教を紹介し、大きな運動を引き起こした釋宗演、目白僧苑を創始した福田行誡、そして三摩提会を組織した平井金三、浄土念仏で行に再び注目を集めさせた弁榮上人などに注目してみたい。

第一講は、明治の廃仏毀釈から、島地、原に焦点を当てる。第二講は村上専精に焦点を当て、当時起こされた大乗非仏説論と仏教統一論を検討とする。第三講、第四講は、行の視点に目を転じ、釈宗演に始まる復興運動、東南アジアへの留学僧、そして明治期におきた行の運動である平井金三による三昧の実践、大正期の弁榮上人による念仏の興隆、そして日蓮宗における唱題行の登場など、考察する予定である。なお、資料は、こちらで作成し配布する。

22　心を観察する ―やさしい唯識　〈4コマ〉

よこやまこういつ
横山紘一
立教大学名誉教授

［日　　時］8月18日（土）13:30～15:00，15:20～16:50
8月19日（日）10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］横山紘一『阿頼耶誠の発見』（冬幻舎）
［受 講 料］5,800円
（早割 4,800円　※８月11日までに受講料を納入された場合）

紀元後２、３世紀ごろに無著･世親によって組織大成された唯識思想は、ヨーガの実践を通して深層心を発見し、全部で眼識・耳識・鼻識・舌識・身識・意識・末那識・阿頼耶識の八識を立てました。

本講義では、まずこれら八つの識一つ一つの働きを、続いて深層心である末那識･阿頼耶識の働きを解説し、最後に根本心である阿頼耶識ついて特に詳説します。

そして人生の目的は「自己究明」と「生死解決」と「他者救済」の三つであるという観点より、この三大目的を達成するために、私たちは、どのよぅに生きていったらいいかを唯識思想に則して考えてみます。

唯識思想は難しいとされていますが、できるだけ日常生活に則してその思想をいかに実践に活かすかを考えてみます。

23　仏教とイスラム教　その遠くて近い宗教関係　〈4コマ〉

保坂俊司（ほさかしゅんじ）
中央大学大学院教授

［日　　時］９月６日(木) 13:30～15:00，15:20～16:50
９月７日(金) 10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］保坂俊司『ブッダとムハンマド』（サンガ）
［受 講 料］5,800円
（早割 4,800円　※８月30日までに受講料を納入された場合）

無慈悲なテロやＩＳの蛮行で、一層イスラム教への日本人のイメージは、悪くなってしまいました。

また、自らを絶対視し、他者の生命を軽んずるかのようなイスラムという宗教への恐怖あるいは嫌悪が、世界中に広がっていることも事実です。

確かに現在の国際社会の混乱の背景には、イスラム独自の教えに起因することが多々ありますが、しかし、それは、決してイスラムそのものではありません。それは戦前の日本が「国体神道」による「聖戦」を唱えて戦争を行ったからと言って、それが神道そのものである、と言えないのと同様な理屈です。このように言うとあるいはイスラム贔屓のそしりを受けるかもしれませんが、しかし、このような理解も実は、今回の一部ではありますが、過激派イスラムの暴走の背景と通じるところがあるのです。

いずれにしても、一部のイスラムをそのように極端な解釈にはしらせた状況を理解する必要があるのです。

そして、それこそ現在の国際社会の一般論に欠けているところです。もちろんイスラム側にもそれは言えますが。

いずれにしろ、両者の溝は憎悪と無理解で深まるばかりです。そしてそこには、他者への尊敬と生命を尊重する心がかけているといえます。

というわけで公正に、そして広くかつ温かいこころでイスラムを知ることが、現在社会に求められています。とはいえ、実は、イスラムそのものを直接知ることは、日本人には特に難しいのです。というのも、日本人が慣れ親しんでいる仏教や神道とイスラムは構造的にかなり異なるからです。

そこで、日本人が、イスラムの言説や文化を理解するには、ちょっと回り道ですが、仏教との比較が効果的です。

というわけで、本講座ではイスラムを理解するために、仏教との比較を行うという方法を取ります。

詳しくは、拙著『イスラムの拡大と格差社会』プレジデント社、2015年をご参照ください。

24　仏教漢文講読：『維摩経』をよむ　〈2コマ〉

山口弘江（やまぐちひろえ）
駒澤大学仏教学部准教授

［日　　時］9月14日（金）　13:30～15:00，15:20～16:50
［テキスト］レジュメ配布
［参 考 書］中村元「現代語訳大乗仏典３『維摩経』『勝鬘経』」（東京書籍）2003年
高橋尚夫、西野翠（訳）『梵文和訳維摩経』（春秋社）2011年
［受 講 料］3,400円
（早割 2,400円　※9月7日までに受講料を納入された場合）

『維摩経（ゆいまぎょう）』は、漢訳では３巻と短い内容ながらも、東アジアの仏教思想および文化に大きな影響を与えた代表的な大乗経典の一つとされます。『法華経』などのように特定の宗派の聖典とされることはありませんでしたが、だからこそ『維摩経』は信仰や教義の垣根を超えて、多くの人々に愛読されました。また、近代以降は東アジアだけでなく、世界中の仏教学者が『維摩経』に着目し研究を行ったことで、欧米語なども含め、数多くの現代語訳が刊行されるに至っています。近年では、これまで残っていないとされていたインド古典語のサンスクリット語によるテキストがチベットのラサで発見されたことも話題となりました。

このお経の主人公は、仏ではなく維摩詰（ゆいまきつ）という大富豪です。在家者でありながら智慧を具えた在家菩薩である維摩詰が病気となったため、仏が誰かをお見舞いに遣わそうとするところから、物語は大きく展開していきます。全14章よりなる物語は、維摩詰が仏の十大弟子をはじめ、弥勒、文殊といった大菩薩を空の理論でやりこめるなど、随所に見せ場が設けられ、巧みに譬喩を用いつつ深淵な教理を文学的に表現することで、読者を飽きさせない構成となっています。

本講義では、『維摩経』の諸訳の中で最も広く読まれた鳩摩羅什訳『維摩詰所説経』をテキストに、本文を講読します。前半では『維摩経』の概要を説明し、後半では経の序章にあたる「仏国品」を受講者の皆さんとともに輪読する予定です。受講を通じて、みなさんが『維摩経』の世界を原典に基づき自ら味わい、仏教漢文の基礎を身に着けることを目的としています。

＊受講にあたって特別な予習は必要ありませんので、これまであまり仏典に触れたことがない方や、歴史や漢文・漢字に興味のある中高生の受講も歓迎します。
＊当日は講読がメインとなりますので、漢和辞典を持参してください。新たに購入する場合は、『全訳 漢辞海』第四版（三省堂、2016年）を推奨します。

25　仏教聖典へのいざない　〈4コマ〉

釈（しゃく）　悟震（ごしん）
中村元記念館東洋思想文化研究所副所長
文学博士
スリランカ国立ベーラデニヤ大学客員研究員

［日　　時］10月21日（日）13:30～15:00，15:20～16:50
　　10月22日（月）10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］購入が必要
［受 講 料］5,800円
　　（早割 4,800円　※10月14日までに受講料を納入された場合）

【講義の内容】

「八万大蔵経」とも言われるほど膨大な仏教の経典。どうして仏教はこれほど経典が多いのか。その理由や真の意味はどこにあるのか。またわたくしどもは、どれだけの経典の内容や意味を理解しているのであるだろうか、等々多くの疑念に対する紐を解くと同時に、われわれの日常生活文化に馴染んでいる仏教をより身近に感じさせ、摩訶不思議なる心の安らぎを覚えさせる講義であって欲しいと願っております。

そこで本講義では、長い間、もっとも難解で親しみやすくない仏教の聖典をわたくしどもが親しみやすくなるように日頃、心血を注いだ中村元博士の数多くの珠玉の教説により『スッタニパータ（経集）』、『ダンマパダ（法句経）』、『般若心経』、『華厳経』、『法華経』、『維摩経』、『勝鬘経』、『父母恩重経』、『観音経』、『金剛経』など著名な仏教聖典を、説話やエピソードを交えてつずられた『仏教経典散策』を主要テキストとして、より分かり易く、担当講師独自の目線にて仏教聖典への思惟方法を踏まえて、そのいざないを昨年度につづいて順次講じてまいります。

【本講義進捗について】

膨大（ぼうだい）な仏教聖典のなかで、仏教伝来約二千有余年という長い歴史を有する日本仏教において親しまれつつ、地球上のいかなる民族も有し難い日本人特有の文化ならびに人間形成を成（な）し遂（と）げた本テキストにあげられた仏教経典の数々に関わる深層の真相を全地球的観点、とりわけ仏教発祥の地、インドおよび漢字文化圏である、中国、朝鮮半島、日本に至るまでを概観（がいかん）するのも、本講義の大きな特徴ともいうべきである由、次年度においても本テキストにとりあげられている経典を順次継続的にすすめられることを念頭において企画された講座であります。

26　大乗仏教はかくして成立した　〈4コマ〉

わたなべしょうご
渡辺 章悟
東洋大学文学部教授

［日　　時］2019年3月25日(月) 13:30～15:00，15:20～16:50
3月26日(火) 10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］レジュメ配布
［受 講 料］5,800円
（早割 4,800円　※3月18日までに受講料を納入された場合）

大乗仏教はいつ、どこで、誰によって、どのように起こったのか。そしてどのように展開していったのだろうか。この実際についてはほとんどわかっていない。本講義ではこれらの問題を中心として、大乗仏教の姿を、歴史的・文化史的な背景を踏まえながら、できるだけ具体的に解説するつもりである。　実際のテーマは以下の通りである。

⑴　小乗と大乗はどのように違うのだろうか．－大乗の定義－
⑵　初期仏典と大乗仏典の違い　－三蔵と大蔵経－
⑶　僧侶はどのように生まれるのか　－受戒の内容とその位置づけ－
⑷　大乗仏教成立の背景と法滅思想　－正法と像法－
⑸　大乗菩薩の授記と誓願　－菩薩からブッダへ－
⑹　説法師の誕生　－大乗仏教を宣教する者－
⑺　三度の転法輪　－ブッダの初転法輪と大乗仏教の勃興－
⑻　三乗思想　－大乗仏教自身が主張した教えとは－

以上、第一日目には「小乗と大乗の違いに」焦点を当てて、⑴から⑶までのトピックを中心に、大乗の特色を様々な角度から分析する。⑴と⑵では、小乗仏教という呼称の歴史的経緯やその意味、小乗仏教の画一化と一体性、逆に大乗仏教の広がりと多様性などを、経典、言語、思想などの面から解説する。特に⑶では、僧侶と教団の関係に着目し、ビデオ等を用いながら現代のサンガ（教団）の実態を解説する。

第二日目には大乗仏教の成立問題を中心に、⑷から⑻までのトピックをとりあげ、大乗仏教の概要とその思想の全体像を理解するように努める。⑷ではパーリ聖典と大乗経典における正法と像法の考え方の相違、⑸と⑹では大乗仏教の成立に関わる根幹の問題を扱う。⑺と⑻では大乗仏教の独自性を歴史的・思想的に特徴づける三度の転法輪や声聞と縁覚・菩薩・仏の位置づけといった教理を通して、大乗仏教の意味を解説する。これらについては世界の最先端の研究を踏まえながら、分かり易く解説するつもりである。

27　米国人が魅了されるアメリカ仏教 ―日本仏教の将来像となるか?　〈4コマ〉

田中（たなか）ケネス
武蔵野大学名誉教授
仏教伝道協会英訳大蔵経
編集委員長
国際真宗学会前会長
日本仏教心理学会前会長

［日　　時］2019年３月30日(土) 13:30～15:00，15:20～16:50
　　３月31日(日) 10:30～12:00，13:30～15:00
［テキスト］購入が必要（講師が持参し販売する）
　　ケネス・タナカ『アメリカ仏教』（武蔵野大学）2010年
［受 講 料］5,800円
　　（早割 4,800円　※３月23日までに受講料を納入された場合）

アメリカの仏教徒は、この四十年間で十七倍も増え、全米人口の1.2パーセントに当たる350万人となっている。彼らに加え、仏教徒とは断言しないが仏教的行動をとる「仏教共感者」（所謂、ナイトスタンド・ブディスト、Nightstand Buddhist）や仏教に強く影響された人々を含めば、全米人口の10パーセント（約3000万人）という驚く数になる。

この仏教徒の伸びの理由に、キリスト教等から仏教へ改宗した人々の増加がある。その中には、俳優リチャード・ギア、歌手ティーナ・ターナー、映画監督オリバー・ストーンもいる。ゴルフ選手タイガー・ウッヅも仏教徒。また、アップル社の創設者、故スティーブ・ジョブズは熱心な仏教共感者であった。

多くのアメリカ人が仏教に惹かれる理由は、仏教にはメディテーション（瞑想）と、その心理学的解釈にある。彼らにとって仏教は、葬式や法事ではなく、「日常の目覚め」を実現させてくれるものなのである。つまり、従来の教会で説教を聞いて「信じる宗教」ではなく、自らが瞑想し、仏教の心理学的解釈を「糸口」に、日常の目覚めに基づく心の安穏を求める、「目覚める宗教」に惹かれるのである。

仏教のサティ（念）という瞑想法に基づくマインドフルネス瞑想は、今や、アメリカ社会でブームを引き起している。彼らは、全国で一日に何らかの瞑想を行なう約1000万人に含まれる。このマインドフルネス瞑想は、宗教の枠を超え、医療、心理療法、教育、福祉、産業、軍隊、スポーツ等、様々な分野で採用され、更に、ストレス軽減以外に集中力、免疫力、鬱の再発防止等にも有効という科学的論文が多数発表されている。

心理学と仏教の関係は、アメリカでは長い歴史がある。二〇世紀の初頭、ハーバード大学のウィリアム・ジェームス初代心理学教授が彼の講義に、スリランカの仏教伝道者が聴講しているのに気がつき、「仏教こそ二十五年後に、皆が勉強することになる心理学です。」と発言したそうだ。あれから百年、仏教は心理学と瞑想法を通して、米国で現代社会に応じて大きく発展してきた。

このすさまじい仏教の伸びの現状と原因を明らかにし、日本仏教が直面する課題の改善策へのヒントを考えることにしたい。アメリカ仏教の歴史は、日本の10分の１しかないが、最初から「現代」宗教であったことが、日本仏教にとって参考になることが期待される。

2018年度　東方学院松江校　年間スケジュール

2018年 4月		5月		6月		7月		8月		9月	
1日		1火		1金		1日		1水		1土	笠原②
2月		2水		2土	藤島① 笠原②	2月		2木		2日	
3火		3木		3日		3火	【集中】 三友②③	3金		3月	
4水		4金		4月	【集中】 吉田②③	4水	【集中】 三友①②	4土	笠原① 【集中】蓑輪②③	4火	
5木		5土	【集中】 加藤②③	5火	【集中】 吉田①②	5木	三桐②	5日	【集中】 蓑輪①②	5水	
6金	岡田②	6日	【集中】 加藤①②	6水		6金		6月		6木	【集中】 保坂俊司②③
7土		7月		7木	三桐②	7土	藤島① 笠原②	7火		7金	【集中】 保坂俊司①②
8日		8火	島田②	8金	岡田②	8日		8水		8土	瀬古②
9月		9水	藤岡①	9土	瀬古②	9月		9木		9日	
10火		10木	三桐②	10日		10火	島田②	10金		10月	
11水		11金	岡田②	11月		11水	藤岡①	11土		11火	
12木		12土	笠原② 瀬古②	12火	島田②	12木	三桐②	12日		12水	
13金		13日		13水	藤岡①	13金	岡田②	13月		13木	
14土	ガイダンス 14:00～	14月		14木	三桐②	14土	瀬古②	14火		14金	【集中】 山口②③
15日	【集中】 丸井②③	15火		15金	齊藤②	15日		15水		15土	
16月	【集中】 丸井①②	16水		16土	藤島①	16月		16木		16日	
17火	【集中】 宮治②③	17木	三桐② 清水谷善暁③	17日		17火		17金		17月	
18水	【集中】 宮治①②	18金	齊藤②	18月		18水		18土	【集中】 横山紘一②③	18火	
19木	三桐② 清水谷善暁③	19土	藤島①	19火		19木	三桐② 清水谷善暁③	19日	【集中】 横山紘一①②	19水	
20金		20日		20水		20金	齊藤②	20月		20木	
21土	藤島①	21月		21木	三桐② 清水谷善暁③	21土	藤島①	21火		21金	
22日		22火		22金		22日	横山純子①	22水		22土	
23月		23水		23土	的野① 【集中】松久保②③	23月		23木		23日	
24火		24木	清水谷善圭① 三桐②	24日	横山純子①	24火		24金		24月	
25水		25金		25月		25水		25土		25火	
26木	清水谷善圭① 三桐②	26土	的野① 【集中】松久保②③	26火		26木	清水谷善圭① 三桐②	26日		26水	
27金		27日	横山純子①	27水		27金		27月		27木	
28土		28月		28木	清水谷善圭① 三桐②	28土	的野①	28火		28金	
29日		29火		29金		29日		29水		29土	
30月		30水		30土	藤島①	30月		30木		30日	
		31木	三桐②			31火		31金			

定期講義時間 ①10:30～12:00　②13:30～15:00　③15:30～17:00
集中講義時間 ①10:30～12:00　②13:30～15:00　③15:20～16:50

10月		11月		12月		2019年 1月		2月		3月	
1 月		1 木	三桐②	1 土	藤島①	1 火		1 金		1 金	
2 火		2 金		2 日		2 水		2 土		2 土	
3 水		3 土	藤島① 笠原②	3 月		3 木		3 日		3 日	
4 木	三桐②	4 日		4 火		4 金		4 月		4 月	
5 金		5 月		5 水		5 土		5 火		5 火	
6 土	藤島①	6 火		6 木	三桐②	6 日		6 水		6 水	
7 日		7 水		7 金		7 月		7 木		7 木	
8 月		8 木	三桐②	8 土		8 火		8 金		8 金	
9 火	島田②	9 金	岡田②	9 日		9 水		9 土		9 土	
10 水	藤岡①	10 土	瀬古②	10 月		10 木		10 日		10 日	
11 木	三桐②	11 日		11 火	島田②	11 金		11 月		11 月	
12 金	岡田②	12 月		12 水	藤岡①	12 土		12 火		12 火	
13 土	瀬古②	13 火	島田②	13 木		13 日		13 水		13 水	
14 日		14 水	藤岡①	14 金		14 月		14 木		14 木	
15 月		15 木	三桐② 清水谷善暁③	15 土	藤島①	15 火		15 金		15 金	
16 火		16 金	齊藤②	16 日		16 水		16 土		16 土	
17 水		17 土	藤島①	17 月		17 木		17 日		17 日	
18 木	三桐② 清水谷善暁③	18 日		18 火		18 金		18 月		18 月	
19 金	齊藤②	19 月		19 水		19 土	岡﨑②	19 火		19 火	
20 土	中村元東洋思想 文化賞授賞式	20 火		20 木		20 日		20 水		20 水	
21 日	【集中】釈②③	21 水		21 金	齊藤②	21 月		21 木		21 木	
22 月	【集中】釈①②	22 木	清水谷善圭① 三桐②	22 土	的野① 岡﨑②	22 火		22 金		22 金	
23 火		23 金		23 日	横山純子①	23 水		23 土	岡﨑②	23 土	岡﨑②
24 水		24 土	的野① 岡﨑②	24 月		24 木		24 日		24 日	
25 木	清水谷善圭① 三桐②	25 日	横山純子①	25 火		25 金		25 月		25 月	【集中】 渡辺②③
26 金		26 月		26 水		26 土		26 火		26 火	【集中】 渡辺①②
27 土	的野① 岡﨑②	27 火		27 木		27 日		27 水		27 水	
28 日	横山純子①	28 水		28 金		28 月		28 木		28 木	
29 月		29 木	三桐②	29 土		29 火				29 金	
30 火		30 金		30 日		30 水				30 土	【集中】 田中ケネス②③
31 水				31 月		31 木				31 日	【集中】 田中ケネス①②

東方学院松江校 2018年度お申し込みと受講料のご案内

●お申し込みと受講料

●新規入会者は入会金￥10,000、継続会員は継続事務費￥5,000と、お申し込み講座の**受講料総額**をお振り込みください。

●各講義の受講料は、講義一覧（６・７ページ）でご確認ください。

●過去に入会金を納入された方は、**継続会員**となります。

新規入会者	入　会　金　10,000円＋受講料
継 続 会 員	継続事務費　5,000円＋受講料

●講義によってはテキスト代が別途必要な場合があります。各講義内容のページをご確認ください。

●納入された受講料は原則としてお返しできません。ただし、次の場合に限りお返しいたします。

- 受講申込みをされた講座が、講師や当校のやむを得ない事情により実施できなかった場合。
- 受講申込みをされた講座が休講になり、補講を実施できなかった場合の休講分の受講料。

●「中村元記念館友の会」会員の方は、入会金または継続事務費が１割引となります。詳しくは36ページをご覧ください。

●原則として受講のお申込みは１か月前までにお願いします。それ以降にお申込みされた場合、テキスト・会場準備などの都合で受講をお断りする場合がございます。予めご了承ください。

●各講義開講日の１週間前（早割締切日）までに**受講料を納入**いただくと、早割料金が適用されます。（申込書の提出だけでは適用されませんのでご注意ください）

●受講申込みについて

●以下のいずれかの方法でお申込みください。（お電話ではお申込みいただけません。）

●郵送またはFAXの場合の申込手続きは、ご入金された時点で完了いたします。

◆受付窓口でのお申込み

受講申込書（33ページ）にご記入のうえ、入会金と受講料を添えてご提出ください。
（窓口での受付時間　10:00～17:30　休館日(月曜日)を除く）

◆郵送またはFAXでのお申込み

１．**受講申込書**（33ページ）にご記入のうえ、下記まで送付ください。
〈郵送の場合〉〒690-1404　島根県松江市八束町波入2060　中村元記念館
〈FAXの場合〉FAX番号 0852-76-9693

２．入会金あるいは継続事務費と受講料を、**申込日から1週間以内**に下記の口座までお振込みください。

- 振込手数料はご負担ください。
- 振込のご依頼人の名前が、申込書と同じ名前であることをご確認ください。
- 振込の場合、領収書は発行いたしません。振込の際に発行される控えを大切に保管してください。

《振込先》**■ゆうちょ銀行**　**※手引きに添付の払込票にて下記振込口座宛にご入金ください。**
口座番号　０１３７０－８－９１２２８
加入者名　中村元記念館

■山陰合同銀行　松江駅前支店（店番号004）
口座番号　普通３６９４６２８
口 座 名　特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所

●その他

●松江校では、各定期講義の第１回目、第２回目の講義のいずれかに限り、体験受講を実施しております。体験受講を申し込まれた方には、講義に必要なテキストやレジュメなどを貸与いたします。（体験用テキスト等はご返却いただきます。）　体験受講料1,500円（１コマ90分）※入会金は不要です。

●開講日１か月前までに受講申込み者がいない講義は開講いたしません。

2018年度　東方学院松江校受講申込書

◆ 太枠内をご記入ください。

申込日	平成　　年　　月　　日	会員申込区分（該当欄に☑を入れてください） ※過去に松江校研究会員になったことのある方は継続扱いとなります。 ※友の会会員は１割引となります。詳しくは36ページをご覧ください。	
フリガナ			
氏　　名	男・女	□新規　入会金　10,000円	□新規（友の会会員）　入会金　9,000円
生年月日	年　　月　　日	□継続　継続事務費　5,000円	□継続（友の会会員）　継続事務費　4,500円
住　　所	〒　　－		
電話番号	－　　－	携帯電話	－　　－
FAX番号	－　　－	E-mail	

◆ 受講を希望する講座の太枠内に○をご記入ください。

	番号	講義名	講師名	○印	受講料	早割料金	早割締切日	事務局記入欄 受領日	担当	データ
定期	1	インドの説話　日本の説話	岡田　真水		8,200円	7,200円	3月30日			
	2	仏教は何を説いているのでしょうか【前期】	三桐　慈海		17,800円	16,800円	4月12日			
	3	仏教経典解説【後期】	三桐　慈海		13,000円	12,000円	9月27日			
	4	中村元『ブッダの生涯』講読	清水谷善暁		8,200円	7,200円	4月12日			
	5	東アジア世界の歴史と文化の歩み	藤島　建樹		15,400円	14,400円	4月14日			
	6	観想行入門	清水谷善圭		8,200円	7,200円	4月19日			
	7	日本仏教美術入門講座	的野　克之		8,200円	7,200円	5月19日			
	8	賢治自伝　―宮沢賢治詩歌による試み	島田　隆輔		8,200円	7,200円	5月1日			
	9	出雲学概論	藤岡　大拙		8,200円	7,200円	5月2日			
	10	アジアの風土と民族音楽	瀬古　康雄		8,200円	7,200円	5月5日			
	11	歴史学入門 ～歴史的ヨーロッパの風景～	笠原　愛古		8,200円	7,200円	5月5日			
	12	『無量寿経』を読む	齊藤　舜健		8,200円	7,200円	5月11日			
	13	ラフカディオ・ハーンの小説を読む	横山　純子		8,200円	7,200円	5月20日			
	14	能海寛著『世界に於ける佛教徒』を読む　その２	岡崎　秀紀		8,200円	7,200円	10月20日			
集中	15	インド思想とダルマ	丸井　浩		5,800円	4,800円	4月8日			
	16	未来のほとけ―弥勒信仰とその美術	宮治　昭		5,800円	4,800円	4月10日			
	17	「熊野観心十界曼荼羅」を読む	加藤みち子		5,800円	4,800円	4月28日			
	18	法相五重唯識観について	松久保秀胤		5,800円	4,800円	5月19日			
	19	画像で見る世界の宗教と哲学	吉田　宏哲		5,800円	4,800円	5月28日			
	20	マインドフルネスへの誘い	三友　健容		5,800円	4,800円	6月26日			
	21	日本の近／現代の仏教―明治から平成まで	蓑輪　顕量		5,800円	4,800円	7月28日			
	22	心を観察する	横山　紘一		5,800円	4,800円	8月11日			
	23	仏教とイスラム教　その遠くて近い宗教関係	保坂　俊司		5,800円	4,800円	8月30日			
	24	仏教漢文講読：『維摩経』をよむ	山口　弘江		3,400円	2,400円	9月7日			
	25	仏教聖典へのいざない	釈　悟震		5,800円	4,800円	10月14日			
	26	大乗仏教はかくして成立した	渡辺　章悟		5,800円	4,800円	3月18日			
	27	米国人が魅了されるアメリカ仏教	田中ケネス		5,800円	4,800円	3月23日			

（ア）	受講料合計				円
（イ）いずれかをお選びください	入　会　金（新規の方）			10,000円	
	入　会　金（新規の方・友の会会員）			9,000円	
	継続事務費（継続の方）			5,000円	
	継続事務費（継続の方・友の会会員）			4,500円	
（ア）＋（イ）	お支払額合計				円

《送付先》

〒690-1404　島根県松江市八束町波入2060　中村元記念館

FAX：0852-76-9693

※申込用紙を郵送・FAXで送られる場合、申込み手続きはご入金された時点で完了いたします。
申込日から１週間以内にご入金ください。

受　付	データ	備　考
／	／	

キリトリ線

●中村元記念館ボランティアサポーター募集

中村元記念館では、当館の事業にご協力いただける「ボランティアサポーター」を募集中です。ご都合のいい時間に、ご自分の持ち味や興味を活かしてボランティアしてみませんか。

詳しくは中村元記念館までお気軽にお問い合わせください。

〈活動内容の例〉

・蔵書整理
・イベント運営
・付属研修施設の環境整備
・チラシ等発送業務
・語学（翻訳/通訳）

●中村元記念館東洋思想文化研究所研究員募集

中村元記念館東洋思想文化研究所の研究員を募集いたします。当研究所は、中村元記念館に所蔵されている中村元博士の約34,000冊の蔵書・資料を活用して、博士が開拓された学問の道をさらに深く探究し、山陰地域の学術・文化の振興に寄与することを目的とします。

〈活動内容〉

・隔年発行予定の当館の研究紀要に研究発表をする。
・可能であれば、関連する学会で発表をする。
・人文科学分野の研究を振興する。

〈応募資格〉

・人文科学分野の修士号を有する方、または修士号と同等の資格（研究業績等）を有する方。
・中村元記念館東洋思想文化研究所の理念に賛同し、中村元記念館を支え、発展させていく熱意のある方。

〈応募方法〉

以下の書類を中村元記念館まで郵送してください。採用に当たっては所長による面接を行います。

・履歴書（功績書またはそれに準じるものを添付する）
・研究課題書
・推薦書

〈応募締切〉

毎年度　２月末日

〈待遇〉

・当館所蔵の図書・資料を管理者の同意のもとご活用いただけます。
・研究助成金等は当分の間支給いたしません。
・研究員に対して会費等の徴収をすることはありません。

中村元記念館東洋思想文化研究所

所長	前田専學
副所長	釈悟震
主任研究員	岡田真水
主事	清水谷善暁
主事補	笠原愛古

Nakamura Hajime Memorial Hall

中村元 記念館 友の会 入会のご案内

中村元記念館では、東洋思想の巨星 中村 元（なかむら はじめ）博士の偉業を伝え、
34,000冊を超える博士の蔵書の調査・整理、収蔵品の管理、東方学院松江校運営など、
幅広い活動を行っております。当館の活動をご理解、ご支援いただき、
また、会員同士の親睦を図る友の会に入会いただきますようご案内いたします。

年会費 年間２千円（毎年3月末日が有効期限となります）

会員特典

- 「中村元記念館友の会」会員証を発行します。
- 中村元記念館の「中村元記念館通信」をお送りします。
- 東方学院松江校入会金、継続事務費10%OFFにします。
- 記念館で販売する書籍・グッズの割引をします。
- 提携施設の入場料が割引料金になります。
- 友の会限定交流会のご案内をいたします。

入会のお申込み方法 次ページの払込取扱票（入会申込書）に、住所、氏名、電話番号、金額をご記入の上、点線に沿って切り取り、お近くの郵便局にお払込みください。（年会費：2,000円）
会費ご入金日より会員となります。会員継続は自動更新となります。
退会を希望される際は事務局までご連絡ください。

◆ 中村元記念館友の会 規約

（名称）第1条 この会員制度は、中村元記念館友の会（以下「友の会」）という。**（事務局）第2条** 友の会事務局は、中村元記念館に置く。**（目的）第3条** 友の会は、館の活動を支援して、会員相互の親睦を図ることを目的とする。**（会員）第4条** 会員とは、前条の目的に賛同し、この規約を承諾のうえ会費を納入するものをいう。2.会員には会員証を発行する。3.会員資格は、4月1日から翌年3月31日までとし、会員より退会の申し出がない限り自動的に更新する。**（年会費）第5条** 会費は、年間２千円とし、次のいずれかの方法により納入する。（1）事務局に直接持参（2）指定口座に振込 **（会員の特典）第6条** 友の会会員は、次の特典を受けることが出来る。（1）「中村元記念館友の会」会員証を発行します。（2）中村元記念館の「中村元記念館通信」をお送りします。（3）東方学院松江校入会金、継続事務費10%OFFにします。（4）記念館で販売する書籍・グッズの割引をします。（5）提携施設の入場料が割引料金になります。（6）友の会限定交流会のご案内をいたします。**（会員証の紛失、盗難）第7条** 会員は、会員証の紛失や盗難にあった場合、ただちに事務局に届け出て、会員証の再発行を受ける。2.会員証が名義人以外に利用され、会員または友の会に損害を生じさせた場合は、名義人がその損害の責を負う。**（届出事項の変更等）第8条** 会員は、氏名、住所等に変更が生じた場合には、すみやかに事務局に届け出る。**（退会届）第9条** 会員は、退会する場合はその旨を事務局に申し出る。**（規約の変更）第10条** 友の会は、必要があるときは、この規約を変更することができるものとし、変更する場合は、会員に通知する。
（附則） この規約は平成27年4月1日から適用する。

アクセス

飛行機でお越しの方

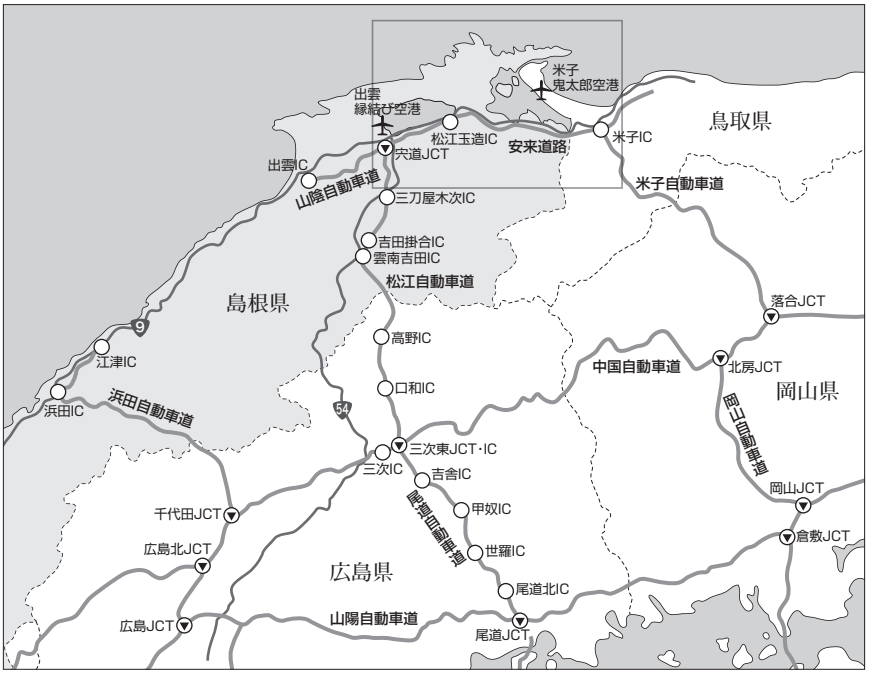
【米子空港から】車で約15分
【出雲空港から】車で約50分

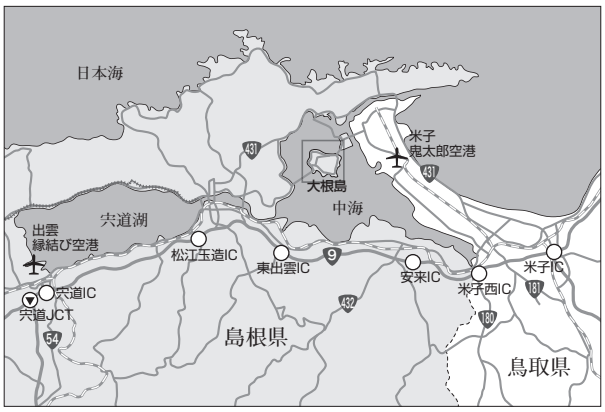
車でお越しの方

【広 島 か ら】車で3時間（中国自動車道三次I.C.経由）
【岡 山 か ら】車で2時間15分（岡山自動車道・中国自動車道・米子自動車道）
【松江駅から】車で約25分
【境港駅から】車で約10分
【米子駅から】車で約35分

バスでお越しの方

【松江駅から】
・松江市営バス「八束町」行で約50分、「八束支所・中村元記念館前」下車
・松江境港シャトルバス約25分「由志園」下車のち徒歩約10分
【境港駅から】
・八束コミュニティバス約20分「八束町・由志園入口」下車のち徒歩約3分
・松江境港シャトルバス約15分、「由志園」下車のち徒歩約10分





2018年２月28日　発行

発行所　特定非営利活動法人中村元記念館東洋思想文化研究所
〒690-1404　島根県松江市八束町波入2060番地　松江市八束支所2F
TEL 0852-76-9593/FAX 0852-76-9693
info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp
http://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp/